

《2019年5月（通算273回）月例会報告》

ラグビーはよくわからない…という方のための、 ラグビーワールドカップ日本大会の楽しみ方

【日時】2019年5月24日（金）19:00～21:10（終了後は「旺達」～23:30ごろまで）

【会場】筑波大学附属高校3F会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1）

【テーマ】ラグビーはよくわからない…という方のための、

ラグビーワールドカップ日本大会の楽しみ方

【演者】直江光信（スポーツライター）

【コーディネーター】嶋崎雅規（国際武道大学）

【参加者（会員・メンバー）10名】

井上俊也（大妻女子大学）、宇都宮徹彦（フリーランス）、金子正彦（会社員）、
岸卓巨（日本アンチ・ドーピング機構）、木村康子（編集者・ライター）、小池靖（在さいたま市
／サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、名方幸彦（文京教育トラスト）、
中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）、

【参加者（未会員）15名】

直江光信（スポーツライター）、鈴木崇正（NEC マネジメントパートナー）、
北澤仁・本間雅裕・関屋忠彦（麻布OB）、坂本英美（麻布多摩川クラブ・メンバー）、
谷原満里子（浦安市在住）、飛澤潔一（葛飾区体育協会）、唐木真成夫（武蔵クラブ）、
東田浩平（筑波大学）、佐藤渚（東京エレクトロン(株)／観戦ファン）、土井芳信、小川精一郎、
守屋佐栄、国島栄市

注）参加者は所属や肩書きを離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するために便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。ご本人の了解が得られた範囲で公開しています。

【報告書作成者】田島嶺（国際武道大学大学院）

【目次】

- I. 自己紹介
- II. ラグビーを楽しむポイントについて
- III. ワールドカップの歴史について
- IV. ワールドカップの経済効果
- V. 日本でワールドカップを行う意義
- VI. 今大会の見どころ
- VII. 日本が入るプールAの見どころ
- VIII. ワールドカップまでの日本の戦績

I. 自己紹介

スポーツライターの直江です。今日はよろしくお願ひします。自己紹介をします。私は熊本県出身で、熊本高校でラグビーを始めました。私が在籍していた時は強くて、2年、3年と花園の全国大会に出ました。私は、3年生の時だけ出場しました。僕、試合に出た時、50分（25分ハーフ）で7回ボールタッチして、3回ノックオン。そういうたいした選手ではなかったのですが、周りがかうまかったので花園に出られました。その後、早稲田大学に進学し、体育会ではなくクラブチームでラグビーを続けました。私は、1975年生まれで44歳ですが、当時はすごい就職氷河期で、なかなか就職が決まらなかったです。僕は、こういう仕事をやりたいなというのがあって、たまたまクラブの先輩が今「ラグビーマガジン」の編集長の田村さんで、ウチでアルバイトするかと言って、アルバイトをし始めたことがきっかけで、それがつながって、今こういう仕事をしているということになります。今も「ラグビーマガジン」を中心にラグビーの取材活動・執筆活動をしています。妻はワールドカップの組織委員会で働いています。そういうラグビー一家です。先輩方を前に恐縮ですが、少しでもお役に立てればとお話しさせていただきます。私が一方的にしゃべっても面白くないと思いますので、ご質問等あれば、どんどん投げかけてください。

II. ラグビーを楽しむポイントについて

ラグビーはホントにいろいろな要素があるスポーツなので、楽しむポイントはたくさんあると思います。人それぞれだと思います。ラグビーの一つの魅力は音です。パシーンって、スタンドの上の方まで聞こえてきます。あの音を生で聞くためには、絶対にトラックがないところで観た方がいいとか、そういうのもあります。が、私が今回、押さえておいてほしい4つのポイントを挙げてみました。

1. ボールよりも前でプレーしてはいけないこと（ノックオン、スローフォワード、オフサイド）

ラグビーは、ボールを頂点にして15人全員でインゴールに向かって攻めていきトライを取ることを目的です。だから、ボールよりも前でプレーしてはいけない。ボールよりも前でプレーをするとオフサイドのペナルティーになります。ボールを前に落としてもいけなく、ボールを前にパスをしてもいけません。

2. 汚いプレー、卑怯なプレーは禁止

ラグビーは、ある意味何をやってもいいスポーツ。タックルで相手をひっくり返したら褒められます。しかし、激しいからこそ汚いプレーや卑怯なプレーをしてはいけない。近年、選手たちの体が大きくなってきて（2m、120kgが11秒台で走る）非常に危険になってきています。ラグビーの統括団体のワールドラグビーは、危険なプレーを排除しようとしています。例えば空中のボールをキャッチするプレーに対して、昔はタックルをしてよかったが、今は禁止されています。今は、一発でレッドカードが出ます。それくらい危険なプレーに対してセンシティブになっています。それでどうことが起こるかということ、試合直後にポンと蹴ったボールに対して、気合いの入っている選手が下に行ってしまった。一発でレッドカードが出る。それが開始1分で起こってしまえば、残りの79分間は14人で戦わなければならなくなります。

3. 得点方法について

ラグビーには、4つの得点方法があります。トライ5点、ゴール2点、ペナルティーゴール（反則のあった地点からゴールを狙う）が3点、ドロップゴール3点。ドロップゴールは、普通のプレーの間に、ボールを一度地面に落としてワンバウンドで蹴るドロップキックで、ボールの間を通る。ラグビーの面白いところは、これだけ得点の方法があることです。得点の組み合わせでスコアがどんどん変わっていきます。サッカーは、どんなスーパーゴールも1点。ラグビーは、トライ5点に、そのあとのゴールで2点、最高7点取れるチャンスがある。6点差以内で終盤まで行けば、逆転のチャンスがあるのです。

4. スコアは「7」の倍数に注目

7点、14点、21点、」得点は「7」の倍数で大きく変わってきます。そのため戦術が変わってくる。6点差はリードしているチームにとってプレッシャーになる。8点差はビハインドのチームにとってプレッシャーになる。

II. ワールドカップの歴史について

今回のワールドカップは9回目。実は意外と歴史が浅い。1983年にオーストラリア（AUS）協会とニュージーランド（NZ）協会がIRB（現ワールドラグビー）にラグビーワールドカップ（RWC）の開催を提案。最初は却下される。様々なプランを提案し、1985年の理事会にて開催が決定（6対2で可決）。当時はHome Unionと言われる8カ国（ENG、WAL、SCL、IRL、FRA、AUS、NZL、RSA）が世界のラグビーの流れを決めていて、その流れは今もほとんど変わっていません。反対したのは、IRLとSCLと言われています。理由は、ラグビーがアマチュアリズムから離れてプロ化してしまうことが恐いということ。

第1回大会は、主催者が統括団体のIRBではなく、開催を主張したAUS、NZL両協会であった。予選もなく、出場16カ国は全て招待という形。第1回～第3回は、参加国は16カ国。第4回からは20カ国に増えた。今回も20カ国。

開催方式は、参加20カ国が5チームずつ4プールに分かれてプールマッチを行い、各プール上位2チームずつが決勝トーナメントに進む。

これが過去8大会の開催地と優勝国です。

▼ラグビーワールドカップ（RWC）過去8大会の開催地と優勝国

回	ホスト国	優勝国	決勝カード
第1回	オーストラリア、ニュージーランド	ニュージーランド	ニュージーランドvsフランス
第2回	イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、フランス	オーストラリア	オーストラリアvsイングランド
第3回	南アフリカ	南アフリカ	南アフリカvsニュージーランド
第4回	ウェールズ（+イングランド、スコットランド、アイルランド、フランス）	オーストラリア（2）	オーストラリアvsフランス
第5回	オーストラリア	イングランド	イングランドvsオーストラリア
第6回	フランス（+ウェールズ、スコットランド）	南アフリカ（2）	南アフリカvsイングランド
第7回	ニュージーランド	ニュージーランド（2）	ニュージーランドvsフランス
第8回	イングランド	ニュージーランド（3）	ニュージーランドvsオーストラリア

基本的にはHome Unionばかりです。ベスト4にもHome Union以外ではアルゼンチンが2回入っただけです。ホスト国も、これまですべてHome Unionです。北半球の国も決勝までは来るが、優勝したのはイングランドの1回だけ。基本的には南半球勢が優勢。ラグビーはもともとイギリス発祥のスポーツ。英4カ国にフランスを加えた5カ国対抗をずっと伝統的に行ってきました。NZL、AUS、RSAは、自分たちの方が実力があるのに、人気は向こうの方があるという状態は嫌だ、そこで世界一を決めようとなったのが、ワールドカップの始まりと言われています。実際にやってみると南半球の

方が強いというのがこれまでの歴史です。

参加者 第1回が行われたのは何年ですか？

直江 1987年です。85年に開催が決まって、開催されたのは87年です。それから4年おきに行われています。87年に始まった当時は牧歌的で、試合が終わったら観客がグラウンドになだれ込んできたり、選手と握手して写真を撮ったり、記者も当時はロッカールームに入ってインタビューしたり、写真を撮ったりできました。

参加者 RWCの開催国に共催が多いのはなぜですか？

直江 純粋な共催は、第1回と第2回だけです。あとは単独開催です。第4回大会はウェールズが主催だけれども、イングランドやフランスでも試合をしているということです。

参加者 それは共催と言わないのですか？

直江 ラグビーでは共催とは言わないのです。なぜそう言わないのかはよくわからない。

参加者 場所がないからとかでは？

直江 場所はありますね。

井上 観客動員の問題ですね。フランス大会であっても、ウェールズやスコットランドの試合を地元でやって観客を動員する。

直江 それもありますが、スコットランドでスコットランド以外のゲームもやっています。おそらくいろんな思惑があると思います。ホスト国を決めるときの投票をするが、お前のところに投票するから試合をさせてくれとか。そういうのが意外とあったりして。

何度も言うが、ラグビーはHome Unionの8カ国だけで物事が決まる。その中でも一番人気があるのがNZL。ラグビーを知らない人でもオールブラックスといえば知っている。だから、ヨーロッパの国は観客動員が見込めるオールブラックスに来てほしい、来てほしいからNZLの言うことは聞くといったところがあります。

Ⅲ. ワールドカップの経済効果

歴史の浅いRWCだが、規模は大きい。2015年大会では、47万人の渡航客、観客動員約250万人、入場料収入は2億5000万ポンド。テレビ放映国200カ国以上、だいたい4,300億円の経済波及効果といわれています。よくRWCは、FIFAワールドカップ、夏季オリンピックと並んで世界三大スポーツイベントと言われているが、試算方法で数字が異なるので一概に三大スポーツとして言えません。ツール・ド・フランスが上に入るとか、いろんな説があります。それくらいの規模はある大会。それが、日本にこの秋やってくるのは間違いない。2015年大会で日本代表が南アフリカに勝った後のグループステージ第3戦vsサモアは、国内で約2500万人が視聴しています。私は、その後のサモアとスコットランドの試合を大阪で観た。サモアとスコットランドの試合を普通に考えれば日本人が見るわけがない。それが、もしサモアが勝てば日本が決勝トーナメントに行けるというゲームだった。それ

を出張中の大阪のスポーツバーに観に行ったら、たくさんTVがある中で1つくらいはやっているかなと思って入ったら、全部ラグビーだった。いっぱいラグビーを見る人がいた。あれは衝撃的だった。ラグビーがこんなことになるんだ、1勝するだけでこんなに変わるんだということを、まざまざと実感したのを覚えています。

V. 日本でワールドカップを行う意義

今までは Home Union 8カ国で行われてきたが、今回初めて Home Union 以外の国で行う。これには非常に大きな意味がある。ラグビーのグローバル化を進めることが大きな目的のひとつで、アジアで初めて開催される大会ということでアジアにおけるラグビーの普及発展に寄与することも期待されている。

VI. 今大会の見どころ

これまでは、北半球か南半球かどちらかの Home Union で行われてきた。今回は中立国での開催。これが優勝争いの大きなポイントになる。それと、気候とコンディション。今大会は、9月20日に始まって11月2日まで。まだまだ暑い時期。日本の蒸し暑さは外国人には全く理解できないし、その中でゲームをやったこともない。それがどれくらい影響するかがほとんどわからない。それに、グラウンド。ヨーロッパのピッチは芝が深くて水はけが悪いのでぐちゃぐちゃのゲームになりやすいが、日本は芝が軽く走りやすい。それが、どれくらい優勝争いに影響するか、それも一つの興味。

参加者 今回の優勝候補は、どこですか？

今、NZLが第7回、第8回と連覇している。世界ランキングも2009年からずっと1位。2年間で1回負けるか負けないかぐらい。今年もNZLが優勝に一番に近い存在であることは間違いない。ただし、今回中立国で行うことがどれくらい影響するか、今のNZLのラグビーが日本のグラウンドにどれくらいフィットするかは、やってみないとわからない。NZLの対抗馬になるのはイングランドではないか。エディー・ジョーンズが日本の気候やグラウンドを熟知していて、最大限それを活かしてくれる。順当に勝ち上がれば、NZLとイングランドが準決勝で当たります。

中塚 IRBがワールドラグビーに変わったのは、いつ？

直江 IRBからWORLD RUGBYに変わったのは、2015年イングランド大会の直前。2010年に2019年の日本開催が決まり、ずっとキャンペーンを行ってきたが、それに入っていたマークはIRB。それを、ワールドラグビーに変えなければいけなかったのが、とても大変だった。アルゼンチンは第1回大会から出場しているが、昔はそれほど強くなかった。それが、第4回のウェールズ大会で頑張っ、あと一歩でベスト8というところまで行った。その時の若い選手たちが成熟して、その8年後の2007年フランス大会で一気に大ブレイクしてベスト4に入る。その時、フランスに勝った。アルゼンチンが世界のトップに入ってきた。イタリアも、2000年から5か国対抗に入って6か国対抗になった。昔8カ国だったのが今は10カ国、これがティア1と言われている。日本は、その下のティア2と言われている。ティア1の10カ国が、いま世界を動かしています。それで、ワールドラグビーにしました。

中塚 サッカーで言うと、FIFAにあたるのか？

直江 まさに、おっしゃる通りです。

中塚 そのワールドラグビーに、世界中のラグビーユニオンが加盟している。

直江 ただ、非常に不平等な構成で、理事会でも日本は1票だが、8カ国は2票持っている。だから、投票するとその意見が通りやすい。

井上 IRBは、サッカーで言うホームユニオン・英国4協会みたいなものです。日本やアルゼンチンがIRBに加盟したのは、1980年代。ラグビーには、国際統括団体がなかった。8カ国だけでやっていたが、ワールドカップを行うにあたって、新しいメンバーを集めました。

中塚 サッカーでは、International Football Association Boardがあつて、そこが年1回会議を開いて、Footballのルールを決めている。FIFAが4票持って、英国4協会がそれぞれ1票ずつ持っている。けれど、そこは競技のマネジメントにはかかわっていない。FIFAという統括組織は別にある。今の話を聞いていると、IRBもFootball Association Boardみたいな自分たちのFootballのルールを決めていく組織だったのが、どこかで変わった。ワールドカップをやるようになってから変わったのか。

直江 ワールドカップをやってみたら、意外と儲かることに気づいた、明らかに変わったのが、第4回のウェールズ大会からです。ちなみに、第3回の南アフリカ大会があった1995年ぐらいに、ラグビーのオープン化が容認されています。それまでは、ずっとアマチュアだった。実質プロみたいに活動していた選手はいたが、基本的に、IRBはアマチュアリズムを堅持してきた。95年にプロを容認して、初めて行われたのが第4回ウェールズ大会で、この時ラグビーは大きく変わりました。具体的に言うと、選手のカラダが全く変わった。

北沢 日本開催は、アジアにラグビーを普及するためと聞いているが、ワールドカップ以降、どうやって普及していくのか。

直江 本来は、そういう趣旨で日本開催が決まったのです。今は、北半球では6か国対抗を、南半球ではNZL、AUS、RSA、ARGの4カ国でラグビー・チャンピオンシップという大会を行っています。これを一緒にして、ワールドカップ以外の年に、ネイションズ・チャンピオンシップという大会を開こうとしている。それをやったら、それ以外の国、サモアやトンガ、ロシアとかジョージアとかルーマニアとかドイツなどの国々がティア1の国と試合をする機会がなくなる。日本も、本来ならアジアの普及をと言って手を挙げてワールドカップを開催させてもらっているのに、反対すべきです。しかし、恥ずかしいことに真っ先に賛成しました。なぜなら、その中に日本が入ってもらえるという話になったからです。これは、本当に恥ずかしいことです。言っていたこととやっていることが違う。アジアは、どうするのか。さらに間抜けなのは、当初ネイションズ・チャンピオンシップの参加国は12カ国と言っていたが、その後10カ国となり、日本は除外されるのではないかという話になった。結果的に昨日、10カ国で行うという案は却下された。ただ、おそらくこの大会は実現しない。シックス・ネイションズは、ワールドラグビーと別の管轄で行っているが、これがものすごいビッグビジネスです。今回のネイションズ・チャンピオンシップ構想は入替戦がある。イングランドは落ちないからいいが、スコットランドやイタリアにとっては落ちる可能性があるからイヤだという意見が根強い。落ちる可能性のある案に賛成するわけがないので、おそらく実現しない（結果としてネイションズ・チャンピオンシップ構想は断念することが6月19日に決定した）。ワールドカップが終わった後にどうするかというビジョンを、日

本協会は示していない。そこが一番の問題です。

鈴木 ラグビーの場合、帰化して日本国籍を取得していなくても外国人選手が代表になれる、その仕組みを教えてください。

直江 代表資格に関しては、ラグビーの独自のルールがある。オリンピックや FIFA ワールドカップに関しては国籍主義。しかし、ラグビーは所属協会主義です。どのユニオンに所属しているかで、どこの国の代表になれるかが決まる。ただし、これにはルールがあって、大まかに言うと 3 年間継続してその国に居住し協会に所属していれば出場資格を手に入れることができる。また出生地と国籍のいずれかの条件を満たしていれば出場資格を得ることができる。ただし、一度その国の代表になった場合は、他の国で代表になることはできません。

【日本代表の外国人選手】

▼RWC1991 ジンバブエ戦先発メンバー	▼RWC2015 南アフリカ戦先発メンバー	▼2018年11月3日 NZ戦先発メンバー
1 太田 治	1 三上 正貴	1 稲垣 啓太
2 薫田 真広	2 堀江 翔太	2 坂手 淳史
3 田倉 政憲	3 畠山 健介	3 山下 裕史
4 林 敏之	4 トンプソン ルーク※	4 ヴィンビー・ファンデルヴァルト
5 大八木 淳史	5 大野 均	5 アニセ サムエラ※
6 エケロマ・ルアイウヒ	6 リーチ マイケル※	6 リーチ マイケル※
7 梶原 宏之	7 マイケル・ブロードハースト	7 姫野 和樹
8 シナリ・ラトゥ	8 ツイ ヘンドリック※	8 ツイ ヘンドリック※
9 堀越 正巳	9 田中 史朗	9 流 大
10 松尾 勝博	10 小野 晃征	10 田村 優
11 吉田 義人	11 松島 幸太郎	11 福岡 堅樹
12 平尾 誠二	12 立川 理道	12 ラファエレ ティモシー※
13 朽木 英次	13 マレ・サウ	13 ウィリアム・トゥボウ
14 増保 輝則	14 山田 章仁	14 ヘンリー ジェイミー※
15 細川 隆弘	15 五郎丸 歩	15 山中 亮平

直江 1991年の日本代表では、エケロマとシナリ・ラトゥの2人。2015年の先発メンバーには、外国出身者が5人。※は帰化している選手です。トンプソン・ルーク、リーチ・マイケル、ツイ・ヘンドリックは帰化している。いわゆる外国人という枠で言うと、マイケル・ブロードハーストとマレ・サウの2人。この時も、なんでこんな外国人が多いのかと張本さんが「喝」を入れていたが、でも、NZ人15人でやっても南アフリカにはなかなか勝てない。日本人が10人出て南アフリカに勝ったら、文句ないだろうと私は思います。またリーチなどは高校生から日本に来ているので、外国人というのに違和感があります。昨年11月にNZとやった時のメンバーは、7人が外国出身者。ただ※は帰化して日本人なので、外国人選手は2人。違和感があるというのわかるが、ルールがそうなっているということを理解してほしいです。

参加者 NZやイングランドにも外国人はいるのですか？

直江 世界の強豪国も外国人選手はいる。NZのメンバー30人のうち、2~3人は外国人。もっと言えば、NZのメンバーの半分ぐらいはアイランダーです。幼いころNZに移り住んできたとか、お父さん・お母さんがもともとパシフィックアイランドの出身であるとか。NZはもともと移民の

国なので、何とも言えないが。イングランド、フランスに関しても外国人選手は多い。

参加者 自分の国で代表になれないから日本に来るのか？

直江 そういう選手もいるが、リーチのように高校から日本に来て日本で育った選手もいます。ちなみに他国の例で言えば、今のイングランド代表の1番と8番はトンガ人。6番のブラッド・シールズは両親がイングランド人であったが、幼少期からNZにいたためどちらも資格はあった。しかし、NZLで代表に選ばれなかったため、エディー・ジョーンズがイングランド代表に呼んだ。アイルランドは南アフリカのU20クラスの選手に声をかけ、若いときに自国のクラブに呼んできて、3年たったら代表に選ぶといったことをやっています。人材の層が薄いスコットランドが、ヨーロッパで一番外国人選手が多いかもしれない。スコットランド系のNZ人を呼んできたりしています。

鈴木 ワールドラグビーが主催するアンダー・カテゴリーの国際大会は？

直江 ワールドラグビー主催の国際大会は、U20だけしか行われていません。U20代表になっても、他国の代表になれます。ただし、おそらくこの規定は今後変わると思います。今、出場資格がなくなるのは、7人制代表とA代表になる。(ラグビーでA代表は、フル代表の一つ下のチーム)

鈴木 インターナショナルマッチの認定があるのですね。

直江 代表資格に関してはとてもずさんだった実情があります。今回のW杯予選では、ものすごいドタバタがありました。W杯ヨーロッパ予選で、当初はルーマニアが出場権を得たが、対戦国のスペインが、「ルーマニアは他国の代表歴のある選手が入っている」と指摘。調べてみると、複数人が7人制トンガ代表の経験があった。しかし、その後の調査で、指摘をしたスペインも他国の代表歴のある選手を出場させていたため、同予選3位だったロシアが繰り上げで本大会の出場権を得ることとなりました。そうしたW杯予選での出来事があり、代表資格についてとても厳しくなってきた。そのあおりを食っているのが日本。今回のW杯の日本代表メンバーにもまだ資格を取得していない選手が含まれていますが、彼らはもう4年も5年も日本のチームでプレーしているのに、10ヶ月以上その国で継続的に滞在していないと継続してその協会に所属しているとは言えないと厳格化されたため、ワールドラグビーからの資格クリアの返答待ちという状況が続いています。プレーする期間だけその国にいればいいということではない。

守屋俊 テストマッチという言葉の意味が、サッカーとは違うようだが？

直江 ラグビーは対抗戦の文化。テストマッチは、その国の一番トップの代表がプレーする試合です。練習で積み上げてきたものを試す機会という意味で「テストマッチ」と言われます。テストマッチに出場するとキャップがもらえます。最初に出場したときに帽子がもらえて、そのあとは出場するごとにバッジがもらえます。キャップ数が多い選手は、それだけテストマッチに出場している選手です。

小川 W杯ヨーロッパ予選・スペイン対ベルギーの試合、その試合で勝てばスペインの本大会出場が決まる試合。その試合のレフリーを担当したのがルーマニアの審判団であった。案の定、その試

合ではベルギーが勝ってしまう。ワールドラグビーは、なぜ審判団を変えなかったのか。

直江 W杯のヨーロッパ予選を統括していたのはラグビーヨーロッパで、そのプレジデントがルーマニア人であるため好き勝手できます。スペインは、試合前にこの審判団はおかしい、変えてくれと抗議したが、それを却下したのがルーマニア人のプレジデント。その時の反則数が、ベルギーの8に対してスペインは28。明らかにおかしかった。

Ⅶ. 日本が入るプールAの見どころ

参加者 今回のワールドカップでは、日本のプールにはどういうチームが入っていますか。また、直江さんの予想は？

【ラグビーワールドカップ2019プール組分け】

プールA	プールB	プールC	プールD
アイルランド (3位)	ニュージーランド (1位)	イングランド (4位)	オーストラリア (6位)
スコットランド (7位)	南アフリカ (5位)	フランス (8位)	ウェールズ (2位)
日本 (11位)	イタリア (14位)	アルゼンチン (10位)	ジョージア (12位)
ロシア (20位)	ナミビア (23位)	アメリカ (15位)	フィジー (9位)
サモア (17位)	カナダ (21位)	トンガ (13位)	ウルグアイ (16位)

※カッコ内は2019年5月13日時点の世界ランキング

直江 これが組分けです。どうやって組分けが決まったかという、まず上から3段目までは前回大会でプールマッチ3位までに入ったチームで、予選なしで出場権を獲得した国です。カッコ内は今の時点での世界ランキングですが、上段の4カ国がこの組分けを決める時点での世界ランキングのトップ4で、バンド1と言われています。2段目がバンド2。日本も前回大会で頑張って12位以内に入ったのでバンド3には入れた。アルゼンチン、ジョージア、イタリアと同じ組に入らなくて済んだ。アルゼンチンと一緒にいたら最悪でした。例えばプールCでアメリカの位置に入ったら、かなり厳しかったと思います。正直言って、今回はかなり恵まれました。これ以上ないだろうなというぐらい恵まれた組合せです。ニュージーランド、南アフリカ、イングランド、オーストラリアには、今のところ日本が勝つのは難しい。アイルランドもかなり強い。ただ、スコットランドなら何とかかなりそう。

守屋 当然、ロシアとサモアには勝てる。

直江 まず、前提として申し上げると、ワールドカップで日本が絶対に勝てるというゲームは一つもない。例えばニュージーランドなら、ロシアには100回やって100回勝つと言える。日本が同じ

ようにロシアに 100 回勝てるかと言ったら、わからないというのが正直なところです。ただ、勝てる可能性は十分あります。

【プールAの試合日程】

▼9月20日	日本 vs ロシア	19:45K.O	東京スタジアム
▼9月22日	アイルランド vs スコットランド	16:45K.O	横浜国際総合競技場
▼9月24日	ロシア vs サモア	19:15K.O	熊谷ラグビー場
▼9月28日	日本 vs アイルランド	16:15K.O	エコパスタジアム
▼9月30日	スコットランド vs サモア	19:15K.O	神戸市御崎公園球技場
▼10月3日	アイルランド vs ロシア	19:15K.O	神戸市御崎公園球技場
▼10月5日	日本 vs サモア	19:30K.O	豊田スタジアム
▼10月9日	スコットランド vs ロシア	16:15K.O	エコパスタジアム
▼10月12日	アイルランド vs サモア	19:45K.O	博多の森球技場
▼10月13日	日本 vs スコットランド	19:45K.O	横浜国際総合競技場

※日本の試合間隔は中7日－中6日－中7日。日本戦でアイルランドは中5日、サモアは中4日、スコットランドは中3日。

直江 対戦順で言うと、開幕戦の相手がロシア。次がアイルランド。そして、サモア、スコットランドと続く。一つ大きいのは、5チームのプール戦なので、必ず1チームは休みがある。どう組み合わせても絶対に試合間隔がズレる。これが一つポイントです。そして、やはりホスト国は恵まれます。日本は中7日－中6日－中7日。ほぼ1週間ずつ空いている。その分回復もできるし、相手の研究もできる。逆に対戦する相手を見ると、アイルランドは中5日。しかも初戦はスコットランド、めちゃくちゃ厳しい試合をやった後の中5日で日本とやらなければいけない。結構きついです。サモアは、スコットランドとやった後中4日で日本とやらなければならない。これはたいへんですね。最後のスコットランド、これは相手がロシアなのでそこまで深刻ではないが、試合間隔は中3日。中3日と言ったら、ほとんど疲れ切った状態でやるようなもの。前回大会、日本は南アフリカに勝ったが、そのあとスコットランドにボロ負けしました。あの時が中3日。正直あんなったら無理ですね、戦えない。今回は、そういう意味でも恵まれています。

参加者 試合順もいいですよ。

直江 これもだいぶ考えてくれたのではと思います、誰が決めたかわかりませんが。

守屋 誰が決めたかわからないんですか？

直江 わかりません。ブラックボックスですね。大会運営者が決めているのですが。

鈴木 付度されるんですね(笑)。動線もなかなかいいですよ。東京、エコパ、豊田、横浜。ところで、ワールドカップに抽選会はないんですか？

直江 抽選会はあります。プールマッチの組合せは、抽選会で決めます。

鈴木 日程とかは、あとで発表される。

直江 そうです。

鈴木 サッカーは、何月何日にこのカードと最初から決まっています、それから抽選が行われる。

直江 今回のワールドカップは、2009年に開催が決まりました。2015年に日本が南アフリカに勝つ前に決まっていたので、すごい心配されていたのが、お前ら大丈夫か、ホントに予選プールで勝てるのかというのが心配されていました。幸いなことに前回勝ったので、最近はあまり言われなくなりました。そういう状況なので、今回はこれぐらいやってくれた、恵まれた日程にしてくれた。

嶋崎 過去8回の大会で、開催国が決勝トーナメントに残らなかったのは前回大会のイングランドだけです。

参加者 日本が予選を突破した場合、決勝トーナメントではどこあたりそうですか？

直江 プールAとプールBの1位2位がたすき掛けになります。(NZかRSAと当たる)

参加者 どっちにしても…。

直江 ただ、南アフリカには1回勝っていますから。今のところ、通算成績勝率10割です。1回しかやっていないので。前回の南アフリカになぜ勝ったのかというと、さっき7点のお話をさせていただいたのですが、ああいう場面になると一発で逆転されるかもしれないというのはすごいプレッシャーなのです。南アフリカなんて、別に20点リードされても10分あれば逆転できる。それなのに、ビビっちゃったんです。ペナルティーからタッチを蹴ってトライを狙いに行ける場面で、ペナルティーゴールを狙って3点しか取れない、そういう場面が多かった。あの時、日本にとって大きかったのは五郎丸がいたこと。遠くからゴールを狙って、3点を取れる。日本は、あまり攻め込まなくてもスコアを積み重ねることができました。それで何とか6点差以内でいられた。ずーっと付いて行って、最後の最後は向こうが動けなくなりました。疲れではなく、メンタルな部分で足が動かなくなった。そして、最後に日本が逆転できた。現時点でニュージーランドには勝てないですが、イングランドとは去年の秋、敵地でやって前半15-10でリードしていた。十分やれると思います。今の日本代表は、ホントに強いです。

小川 先ほど、過去の優勝国が4カ国しかないとおっしゃっていましたが、この4カ国はクリケットのワールドカップで予選を免除されている国です。クリケットで言うと、この4カ国以外にもインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュも免除されている。ラグビーで言うと、フィジー、トンガ、サモアあたりがこれにあたるのでは。同じ英国が宗主国でありながら、一方ではラグビー、一方ではクリケットとなったのはなぜだろうか？

直江 お話をお伺いして、面白い話題だなと思いました。まったく不勉強で申し訳ありません。

小川 昨年2月にニュージーランドに行ったが、ラグビーはやっておらず、クリケットをやっていた。

直江 ニュージーランドのラグビーシーズンは3月から8月まで。学校とかクラブレベルでやるのは、冬は全く別のスポーツを行います。

小川 先日、ニュージーランドからコーチが来て小学生にラグビーを教え、タグラグビーを行うというイベントがありました。小学生たちが最後に「ハカやって」と言ったが、白人のニュージーランド人は、「それは神聖な踊りだからここではできない」と言って断った。また、ニュージーランド国歌を学ぼうというイベントには、マオリの方が来ていて、「ハカやって」と言われてそこではやっていた。やはり同じニュージーランド人でも、白人にとって「ハカ」はマオリの神聖な文化なのか？

直江 ハカは、オールブラックスでは2種類ある。いわゆる「カマテ」と新しくできた「カパオバンゴ」があります。昔の「カマテ」は、基本的にはマオリだけのもの。それだとリードするのがマオリしかできない。今は、マオリ以外にもたくさん代表選手がいます。サモア人がキャプテンを務めたこともあるし、トンガ人のこともあるし、白人のこともあります。いろんな人がリードできるようにと作られたのが、新しい「カパオバンゴ」というハカ。高校生になると、高校ごとにハカがあります。ハカは、だいたい200種類くらいあって、その中で戦いの踊りは10種類くらい。ほとんどがセレモニー用です。

守屋 YouTubeで観たが、ニュージーランドで高校の先生が亡くなって、それを見送るのに高校生が全員でハカをやっていた。

直江 オールブラックスは試合前にハカをやるが、試合後にやるハカもある。第1回ワールドカップの時は、ウエイン・シェルフォードというマオリの名門一族の家系の人がリードしていた。それまで、ハカはだらっとやるようなものだったが、シェルフォードが、どうせやるならピシッとやろうぜと言って、今のようなものになった。今では、ハカを観るためにチケットを取るほどのものになっています。

参加者 試合前にハカをやるのはニュージーランドだけですね。

直江 それが、そうではないんです。南太平洋の3チーム（サモア・トンガ・フィジー）は、みんなやります。だから、サモア戦では見られます。

参加者 あんなのやったら、絶対士気が上がりますよね。

直江 おっしゃる通りです。不平等ですね。イギリスのメディアとかはよく言っています。だから、最近では対抗しますね。2007年のフランスワールドカップでフランスが勝った時には、彼らはトリコロールのTシャツを着た。そして、みんなで肩組んで、どんどん近づいて行った。中には、まったくハカを無視する選手もいます。やはり、よく考えたら不平等だと思います。

名方 日本はラグビー人口が多いと聞いたのですが、世界の中ではどうなんですか？

直江 日本の競技人口は大体 12 万人から 13 万人とされています。世界で 4 番目か 5 番目ぐらい、ニュージーランドと同じくらいです。日本は、高校生が多いような気がします。サモアはワールドカップで 2 回ベスト 8 になっているが、そもそも人口が 18 万人、トンガは 10 万人くらいです。ニュージーランドも人口が 400 万人くらい。その中で 12 万人くらいが競技をやっている。一番多いのはイングランドで、100 万人くらい。南アフリカも 100 万人くらいとされています。オーストラリアは、オージーボールやリーグラグビーと掛け持ちでやっている選手もいます。

木村 先ほど、プール戦を 5 チームで行うということで必ず 1 チーム休みが出るというお話でしたが、そもそもなぜ 5 チームで行うのですか。サッカーを見慣れていると違和感があります。国数を増やすというならば、なぜ 16 チームから 24 チームに増やさないのでしょうか？

直江 それは、大会のレベルを維持するためです。100 点差がつくようなゲームをやっても意味がないだろうということです。20 カ国というのがギリギリのところですよ。それでも下の 2 つ 3 つは、もう最初からゴメンナサイというところがある。

木村 じゃあ、逆に 16 でいいんじゃないかと思うんですが。そうならない理由は、何ですか？

直江 もしかしたら、また 16 に戻すかもしれないですね。今まで、ワールドラグビーは「裾野を広げなければ発展はない」と言ってきたが、今は逆行している流れがある。俺たちだけよければいいという。もしかしたらまた 16 になるかもしれないし、それこそトップの 10 カ国だけでやったりゃいいじゃんということになる可能性もあります。ラグビーをされた方はわかるかもしれませんが、ラグビーって強くなるのがすごく大変なんです。15 人でやらなきゃいけないから。人を集めるのがまずたいへんですし、それを鍛えるのもたいへん。色々なポジションで求められる能力も違う。だから、簡単に強くならない。そこがたいへんなところですよ。

嶋崎 あと、ちょっと力の差があったら、30 点～40 点すぐ開きます。ほんのちょっとの違いでミスマッチになる。

守屋 ラグビーのレフリーをされている方の著書を読んだときに、高校生の試合を吹いていると後半負けているチームがインゴールからなかなか出てこないと書いてあった。

直江 ラグビーで負けるとキツイですよ。なんか、全部で負けたような気になる。人格で負けたみたいに。だから、ホントに立ち上がれなくなります。

参加者 トンガとかサモアが、競技人口が少ないのに強い理由は何ですか？

直江 ちょっと刺激的な言い方になるが、血が違う。トンガなんか、なんであんなに人間少ないのに、なんであんなに大きいのだろうというくらい体が大きい。また強いんです。

参加者 サッカーのワールドカップは約 1 カ月で終わるのに、ラグビーは出場国は少ないのに期間が長いのはなぜか？

直江 試合間隔が長い。最低中 3 日。1 試合の負担が大きい。試合のクオリティを維持しようとす

ると、ある程度試合間隔を開けなければならない。今年の2月~3月に行われた6か国対抗ですが、1試合すると5人くらい怪我人が出る。それもちょっとした怪我ではない。1カ月離脱とか、半年離脱とか。それぐらいハードになってきています。今のラグビーは、言い方悪いですけど、選手は消耗品です。15人いればいいではない、30人でも足りない。エディ・ジョーンズなどは40人鍛えなければいけないというほどタイトになっています。だから、どうしても全チーム中6日でやりたい。

嶋崎 大学リーグでは日曜ごとの試合ですが、これも2週やったら1週空けます。そうしないと選手が持ちません。どんどん壊れます。疲労がどんどんたまっていきますから、2週やったら、1週空ける。1週間に1試合が限界だと思います。中3日では、ほとんど無理。だから、2つチームを作って大会に臨むという戦術に出る国もあります。日本もかつて、A・Bの2チームを作って、強いところとやる時は捨てゲームでBが出ていく。そうすると、南アフリカ大会のような悲劇が起こる。

直江 エディ・ジョーンズがすごいなあと思うのは、サッカーは結構ポンポン試合をやりますよね、ヨーロッパのクラブは自分のリーグの試合もあってチャンピオンズリーグもある、みたいに。エディは、あれはどうやってやるんだろうと思って、グアルディオラに話を聞きに行った。タクティカルピリオダイゼーションの考え方をラグビーでもなんとか取り入れられないかと検討している。

鈴木 サッカーで言うと、90年代のドイツが大会期間中のメディカルで革新を起こしたと言われています。グループステージで怪我をしても、準決勝・決勝では出てこられるようにリカバーできる体制をチームのメディカルが作ったし、そういう処方を考えました。ラグビーで、そんなに激しいコンタクトがあるのなら、チームのメディカルはどうなっているのですか？ ニュージーランドが優勝を目指しているのなら、最初から7試合する計算でやっているはず。そういうチームマネジメントは、どうなっているのですか？

直江 私はいろいろな競技を取材させていただくが、今のラグビーの選手のリカバリーは、いろいろな競技と比べてトップクラスだと思います。まず、ゲームが始まる前と終わった後に必ず体重を量る。日本代表の大野均というロックの選手は、192 cm 105 kgくらいあるが、1試合で体重が5 kgくらい減る。全部水分、汗です。今はほとんどのトップチームがそうですが、試合前の体重にならないとロッカールームを出さない。食べますし、水分を飲ませます。基本的には飲ませて体重を戻す。あとは、エネルギー源とプロテイン。プロテインは、高校生でも強豪校レベルになると練習が終わったら30分以内に必ず摂る。あとは、補食を摂る。帝京大学がなぜ強くなったかというところ、そこです。帝京大学が練習試合に行くときには、クルマで選手分の補食をドッサリ持っていく。終わったら、すぐ摂れるように。上のレベルになると、ハーフタイムで摂るものも細かく指示しています。

鈴木 フィジカルな怪我は、そういうわけにはいかない。

直江 そうですね、起こってしまう。ここには、アクシデンタルな怪我とそうではない怪我がありますよね、回避できる怪我とどうしようもない怪我。回避できないアクシデンタルな怪我は、コーチがどうにかするしかない。ただ、そうではない怪我は、コンディショニングチームがどうにか

回避しようと、完全に分けて考えている。

面白かったのは東芝が強かった時の話。東芝はガツガツ来るチームで、一番傷むラグビーをしていた。その東芝のトレーナーは、「打撲は慣れます」と言っていました。打撲をしても最後まで走れる、そういうトレーニングをやると。実際に、そうになっていた。それができないと、今のラグビーはやれない。今、ラグビーはスーパーマンのスポーツになってきているので。

井上 今回のラグビーはインプレーの時間が長くなって、おそらく20年前の2倍くらいになっている。歩いている場面や立っている場面はほとんど見られなくなった。

直江 近年のラグビーでは、インテンシティー（強度）が上がってきている。1991年のRWCでは、40分ハーフの80分間でインプレーの時間が23分~25分だったとされている。現在はトップレベルのテストマッチになると40分を軽く超える。しかも、体重とスピードが上がっている。これは、プロ化の影響。

井上 だから、観ているほうは楽しいが、やっているほうはたいへん。

直江 そうですね、怖いなと思います。今のラグビーは別物ですね、トップレベルは。

井上 第1回と第2回のワールドカップの時は中5日くらいであったが、今は、強豪国の試合をテレビ中継の関係で週末に持っていくと聞いたが。

直江 第1回と第2回は16カ国でやっていたというのものもあるが、ただ強豪国有利の日程はズーっと続いている。

参加者 ジャージやスパイク、ボールなど用具の進化はあるか？

直江 ボールは、第2回の時から全部ゴムになりました。第1回の時はい皮でやっていたかもしれない。また昔は縫い目の紐がついていたが、今はなくなった。紐があると、キックを蹴る時に回転がブレるから、今はツルとしたボールになっています。ワールドカップ使用球は、レプリカで2万円くらいします。普通に練習で使うものは、7,000~8,000円。もう、全然違うらしいです。手にピタッとくっつく。ジャージも大きく変わりました。昔はなかなか乾かない綿素材だったが、今はピタッとした素材で、ジャージをつかまれないようになっています。今は一人では脱げないので、仲間に脱がせてもらったりしています。

参加者 それは、いつくらいから？

直江 私が覚えているのは、1999年のウェールズ大会から、オールブラックスがフィットジャージをadidas製で採用した。胸にシダのマークのすべり止めがついていた。

参加者 昔は襟がついていた。

そうですね、今は、襟がなくてもよくなった。

参加者 よく破れないなど。

直江 時々破れます。でも、今はピタツとしているので、つかめません。つかめたら、破れることもあります。

守屋 釜石で行う試合の観客の移動と宿泊はどうするのか？

小川 一関のような新幹線の駅からバスで輸送する。あとは駐車場を整備する。

守屋 宿泊施設は、あまりない。

参加者 私は参加するものですが、今、旅行会社がいろいろと手を打っているようです。

直江 熊谷は、おそらく一帯を封鎖してバスしか通らないようにする。

どの試合をどの会場でやるかという点について、ワールドカップを開催することで日本協会に入ってくる収益は、基本的にチケット収入だけです。放映権料やスポンサーフィーは全部ワールドラグビーが持っていく。日本からすると、チケットを売らないことには儲けが出ない。必然的に、人気があるカードは大きな箱でやることになります。お客さんが入るカードは大きな箱で、そうでもないカードは小さな箱でということになります。

参加者 東京スタジアムって味スタですよ。味スタって言えないの？

直江 これは全部そうです。ネーミングライツは全部だめです。

参加者 では、ネーミングライツを持っている味の素には、どうなっているのか？

直江 どうなっているのでしょうか。おそらく、開催都市に立候補したときから、そういう契約になっているかと。自動販売機も、公式スポンサーではない機械には全部カバーがかけられる。会場周囲の一定の範囲以内は、全部ラッピングも制限される。ビールはハイネケンしか売れない。

参加者 今回の大会はチケット代が高いと聞いている。ラグビーを普及させるためには、チケット代が高いと購入する人が限られるのでは。

直江 チケットが高いかどうかに関しては、おそらく以前の大会と変わっていないと思います。

参加者 私は高いと思います。海外のチケットは、もっと安かったように思う。

直江 高いチケットと安いチケットと幅があったと思います。

嶋崎 開催国の収益はチケット収入だけ。赤字を出さないためには、それなりの価格設定になってしまうのでは。

直江 多分ラグビーをやっていた人だからそう高く感じないというのものもある。私も開幕戦のカテゴリ

一A (50,000 円) を買ったが、普通の人に言わせると信じられないと。うちの親戚に、「熊本でこういうゲームがあるから買ったら？ 一番いい席でも 15,000 円だよ」と言ったら、「15,000 円もするの」と言われてしまった。

参加者 熊本は 15,000 円なの？

直江 会場と対戦カードによって値段も違う。一概に日本が高いかというと、そうではなくて幅がある。一番安い席は、2,019 円とかもある。

参加者 先週くらいに、黒字になるという記事を読んだが。

直江 早い段階で、チケットに関する不安はなくなった。そこが懸念されていたのですが。

北澤 釜石が一番早く売り切れた。

直江 チケットは全体で 180 万枚売るのが、そのうち 90 万枚は日本が売る分、90 万枚はワールドラグビーが持って行く。スポンサーに配ったり、ホスピタリティーチケットと言ってプレミアムを付けて売る。それが売れなかったときに、どんどんこっちに戻ってくる。それが戻ってくるタイミングと量がわからない。だから、いま売り切れとなっても、時々見るとチケットが出ている場合がある。この間も、釜石が出ていた。つい 2, 3 日前です。あれだけ売り切れと言っていたのが出てくるので、買いたい方はマメにサイトを見られるといいです。突然、出ます。

参加者 直江さんの予想をまだ聞いていないのですが、日本はどうなりますか？

直江 ロシアに関しては、開始早々のレッドカードとかがなければ勝てるはず。勝ってもらわなきゃ困る。ロシアに勝った瞬間に、前回の南アフリカに勝った後のように大きな波が来ると思う。すると、またちょっと雰囲気も変わるので、僕はそれに乗ってアイルランドに勝ってほしいと思っています。アイルランドは強い、正直かなり強い。ここは、何とか勝負になるくらいのゲームをやって、いい雰囲気でサモアに挑むと。サモアも強いです。サモアに絶対勝てるかといったら難しいです。ただ、勝てない相手ではない。何とかここを乗り切って、最高の雰囲気でスコットランド戦に臨んで、そこで何とかして、もうムードで勝つしかないと思います。

前回大会の結果が良くて、今大会の組み合わせは非常に恵まれています。ただし、日本代表がいくら強くなったとは言え、本大会で必ず勝てるという試合はない。ホント、みなさん「スコットランドには勝つでしょ」と言われるが、ハッキリ言ってそんな簡単ではないです。

参加者 プール戦の順位の方法は？

直江 勝ち点は、勝ちが 4、引分けが 2、負けが 0 です。ボーナスポイントがあって、トライ数が 4 以上で 1 (現在は相手より 3 トライ以上多くトライすれば 1)、7 点差以内の敗戦で 1 です。前回大会は 3 勝したが、ボーナスポイントが取れなくて決勝トーナメントに進めなかった。日本はどっちにしても接戦で勝つしかない。負けるときは大敗する。だから、日本が勝ち点で勝つというのは難しい。そうなると、どうしてもスコットランドに勝つしかない。勝ったら、ニュージーランドと南アフリカのどちらかとやることになります。

Ⅷ. ワールドカップまでの日本の戦績

今の日本代表は強いです。去年の11月にイングランドと敵地でやって、前半15-10と勝っていて惜敗。その前年には、敵地でフランスと戦って23-23と初めて引き分け。その前、2016年にはウェールズとやって、30-33と負けましたが3点差。敵地でこれくらいやれるようになった。着実に日本代表は強くなってきています。エディー・ジョーンズとジェイミー・ジョセフの二人のチーム作りの違いは、エディー・ジョーンズはベースを上げる。とにかく鍛えて、ベースを上げる。なので、安定感がある。今ジェイミー・ジョセフは、最大値を上げるようなチーム作り。はまったら、ものすごく強い。でも、ダメな時はからっきし。今、キックを多用する戦い方をしているが、これは明らかにアイルランドとスコットランドをイメージしている。北半球のカチツとしたチームにカチツと戦っても勝ち目はない、揺さぶるにはキックを使うしかない。それを、ずっとやっている。あれは日本には合わないというのは、私的的外れな批判だと思います。ニュージーランドと同じプールでやるとなったら、また違うことを考えなければならない。エディー・ジョーンズは、まさに南アフリカとやることを想定して、あのラグビーをやった。なので、エディー・ジョーンズの時と違いがあるということを理解しておくべきです。

嶋崎 最後に直江さんから最終的なプレゼンテーションを。

全然まとまらない話で、申し訳ありません。大事なのは、今回のワールドカップが終わった後です。おそらく今回のワールドカップは、よっぽど何かない限り盛り上がると思う。それを、どうやってつなげていくかがすごく大事なのに、ホントに残念なことにその先のビジョンがない。ワールドカップの成り行きで考えましょうという感じ。それに、(日本ラグビーフットボール協会)この6月で会長と理事会が変わる。普通、このタイミングでありえない。それぐらいバタバタです。このワールドカップを未来につなげていかなくてはならない。そのために自分もいろいろと考えています。今回は、みなさんからたくさんアイデアをいただきました。本当にありがとうございました。